

天皇代替わり 今後の課題

一般社団法人 共同通信社

福島支局長（元皇室取材チーム長） 山田 昌邦さま

【日時】2019年（令和元年）10月25日（金）

【会場】梅田サテライト 106号教室

【司会】高野 恵亮 先生（都市経営研究科・教授）

【議事録担当】三嶋 浩子(M19AB511)

【講師自己紹介】20年前に皇室取材チームに所属。その後、神戸支局に異動後も皇室報道に関わり、今年5月、代替わり取材を仕切る任務を担当。その後、本年9月より再来年の東日本大震災被災後10年に向けて、福島支局長に就任しました。

【ご講演のアジェンダ】

- ① 代替わり儀式、ハイライトへ
- ② どんな天皇像を描くのか
- ③ 皇族減少と皇位継承
- ④ 皇室取材
- ⑤ 質疑応答および活発な議論

①【代替わり儀式、ハイライトへ】

①-1. 代替わり儀式、全体のスケジュール

『即位礼正殿の儀』

正月の歌会始などが行われる最も格式の高い松の間が儀式の場に。



剣・弓を持つ警備の役割。
（今回、雨天のため省略）



新天皇が高御座に立ち、即位を宣明。
（京都御所にある高御座がトラックで運ばれた）

今後の即位関連行事など

2019年 10月22日	皇居・宮殿で「即位礼正殿(せいでん)の儀」 祝賀パレード「祝賀御列(おんれつ)の儀」 祝宴「饗宴(きょうえん)の儀」(25、29、31日にも開催)
11月14、 15日	皇居・東御苑で大嘗祭(だいじょうさい)の 中心儀式「大嘗宮(だいじょうきゅう)の儀」
16、 18日	皇居・宮殿で祝宴「大饗(だいきょう)の儀」
11~12月	伊勢神宮、神武天皇陵、昭和天皇以前の4 代の天皇陵に即位を報告。京都御所で茶会。 即位関連行事の終了を宮中三殿に報告
20年 2月23日	即位後初の天皇誕生日
4月19日	皇嗣秋篠宮さまの「立皇嗣(りっこうし)の礼」



『祝賀御列の儀』

政府の判断として、台風被害の復興優先のため、11/10(日)に延期。

『饗宴の儀』

両陛下の負担を考え、前回より簡素に。国内外の賓客は前回の約3400人から約2600人に減。

『大嘗宮の儀』

天皇が即位後、初めて行う新嘗祭。その年の穀物を天照大神に捧げ、国の安寧を祈る。その後の大嘗祭は、新天皇が靈威を新たにまとうとされる大切な儀式。

『親謁の儀』

伊勢神宮に参拝。両陛下は洋風の馬車に乗る。明治・鹿鳴館時代のヨーロッパ文化と皇室文化の融合。

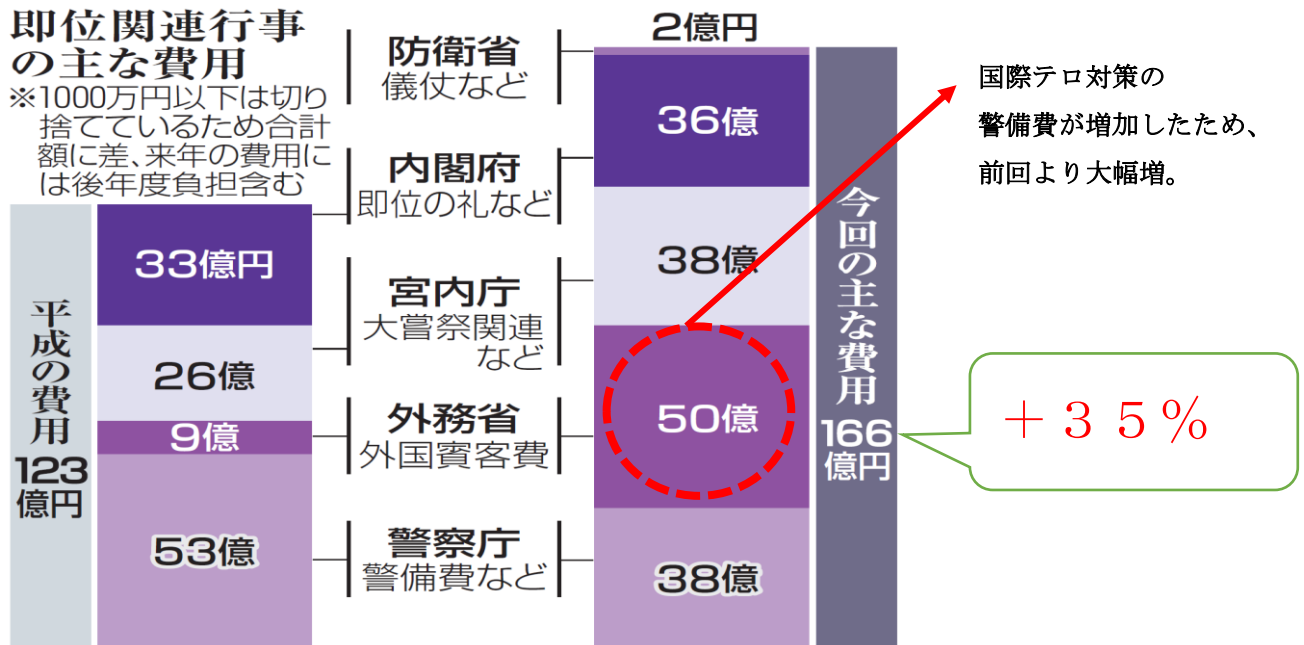
①-2. 天皇陛下のお言葉（ポイント）

- この儀式は、国事行為なので内閣の助言と承認が必要。（お言葉は、閣議決定されている）
- 全体的には、上皇さまの平成即位時お言葉を踏襲している。
- また、社会的弱者と戦没者を思う上皇さまの「御心（みこころ）」に長く触れている。

- 上皇さまは「日本国憲法を守り」と述べたが、今回は“日本国”を省き、「憲法にのっとり」という言葉遣いと「国民に寄り添いながら」という、平成にはなかった新しい言葉を入れた。
(上皇さまの即位時は、改憲派から「新天皇は護憲派?」と見られた)

①-3. 皇位継承儀式を巡る問題点

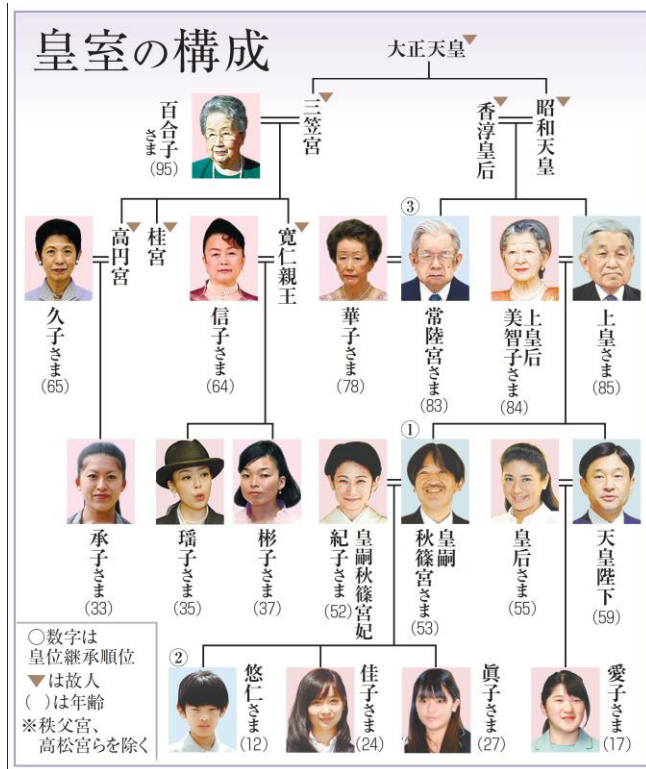
1. 『**政教分離**』の原則との矛盾・・・国事行為として行う即位儀式において、神話に由来する三種の神器や高御座が登場するのは如何なものか。政府の見解は皇室経済法7条に則り、三種の神器は『皇位とともに伝わるべき由緒ある物』として代替わり儀式の宗教性は否定。
また、神道形式の大嘗祭に宮廷費（皇室の公的活動費）が使われる。（毎年の新嘗祭は内廷費＝天皇家の私的活動費が使われている）
2. 儀式の『**簡素化**』・・・30年前の代替わりより、国家財政は厳しくなっている。赤字国債は5.8倍に増えており、所得税控除も削られている中、今回の皇位継承儀式に係る費用は全体で35%増。これが国民の総意を得られるのか、皇室は腐心する。（秋篠宮皇嗣発言「宗教色の強い大嘗祭を国費で賄うのは、いかがなものか」＝政教分離原則と簡素化に問題提起）



②【どんな天皇像を描くのか】

- 上皇さまは様々な評価をされてきたが、天皇として大成した。被災地訪問・国内外の戦没者慰霊などにより、『行動する天皇』として、平成流の象徴天皇像を確立した。
- 新しい天皇陛下は、上皇さまのようにできるのか。上皇さまは2001年2月の誕生日会見で、「(皇太子=当時)時代に即した新しい公務を考えてやってほしい」と望まれた。
- しかし、平成における天皇陛下は、ご家庭でのお悩みが続いた。その中で、天皇としての準備がどのようにできたか、案じられる。
- ライフワークの水問題を、どのような位置づけにして、国民の理解を得るのかも課題。
- 皇后さまが、美智子さまと比較されるのは必至。皇太子妃時代とは異なる、新たなプレッシャーが生まれないかが心配される。

③【皇位減少と皇位継承】



- 男性皇族が少ない。
- 令和30年の皇室は、女性皇族が結婚して、42歳の悠仁さま一人だけの皇室になる可能性が危惧される。
男系（＝父方の血筋に天皇がいる）を皇統としてきたため。
- そのため安定的な皇位継承・皇族減少対策の議論が必要。

●皇位継承・皇族減少対策の方向性は、主に3つ。

1. 女性天皇・女系（母方の血筋にしか天皇がない）天皇の容認。

⇒（この方向の課題）1. 女性天皇は過去に8人存在したが、幼い甥などが成長するまでのワンポイントリリーフ。自分の子どもを天皇にした例はない。2. 男系継承の場合、世論調査では国民の約80%が女性天皇を容認していることと、どう折り合うか。3. 女系天皇は過去に存在しなかったため、保守派が「神武天皇以来の伝統維持を！」と反発している。

⇒2005年11月の小泉政権における有識者会議では、愛子天皇を前提とした『男女関係なく、直系長子が継承』を提言したが、翌年2月の紀子さま懐妊により、棚上げとなった。

2. 女性宮家の創設。

⇒2012年10月、野田政権の有識者会議で論点整理され、結婚後も皇室に残り、新たに宮家を創設することが検討されたが、女系反対の安倍総理による政権誕生により白紙化。

⇒（この方向の課題）1. 皇位継承権を認めない→皇位継承は安定化しない。認めると、男系の女性天皇が生まれる可能性がある。2. 配偶者・子どもを皇族とするのか。皇族とする場合、歴史上初の女系天皇が生まれる可能性がある。皇族としない場合、家族の中で皇族とそうでない人の分断が生まれ、皇位継承の安定化にも寄与しない。

3. 旧宮家（旧皇族）の復帰。

⇒戦後の1947年、GHQの指示で11宮家51人が皇籍を離脱。この旧皇族を皇籍に復帰させ、男子に皇位継承権を付与することで『男系男子』による皇位継承が可能。

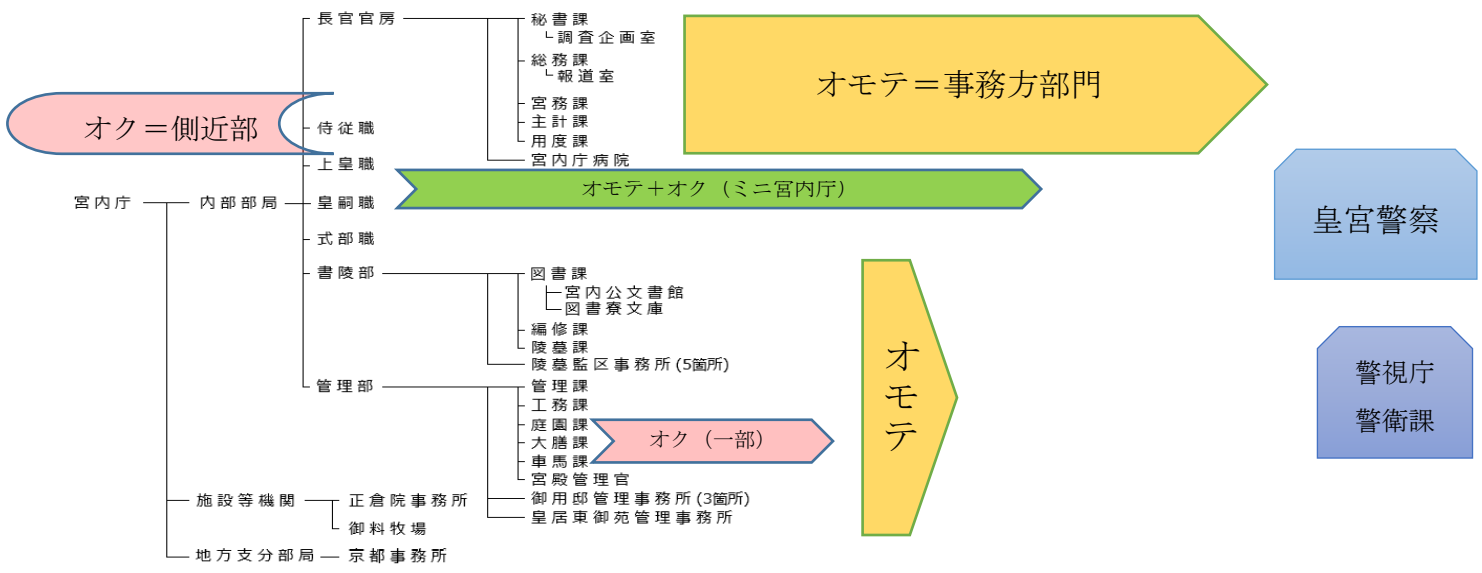
（この方向の課題）1. 天皇陛下との共通の先祖は600年前に遡る。2. 現存する旧皇族は、すっかり一般国民の生活を送っている。国民感情は、旧皇族を適格性ありと認めるか。

- 2017年6月、皇室典範特例法・付帯決議（衆参両院委員会）により、政府は安定的な皇位継承のため、速やかに検討を行い、結果を国会に報告することになった。が、期限は定められていない。
⇒愛子さまは、来春大学入学。人生設計を考える時期を迎える。制度ができて、対象者不在になる可能性がある。時間がないにも関わらず、付帯決議に期限を盛り込めなかった。
- 今後の安倍政権の対応は、来春の秋篠宮立皇嗣の礼が終わった後、有識者から意見聴取の見通し。
⇒政府は『男系継承』の伝統維持を重視。しかし、伝統維持では先細りのみである。天皇の地位は国民の総意に基づくものなので、今後は象徴天皇の在り方を含めた国民主体の議論が必要。

④【皇室取材】

- 皇室記者は、天皇および皇族に直接取材する機会は限られている。よって、対象者に接触する人（宮内庁のオク＝※下図参照）と呼ばれる側近部門の人・皇宮警察・友人・知人）が取材のターゲットとなる。
- 接触する人の証言を集め、言動の背景や人物像を重層的に分析することで、原稿の深みに差が出る。

宮内庁の「オモテ」と「オク」



⑤【質疑応答および活発な議論】

ジャンルA 『皇室報道』 に関して

- A-1: 今回の『即位礼正殿の儀』のテレビ報道の盛り上がり（NHKは一日中取り上げていた）について、山田先生はどう思われるか。
⇒平成は、昭和天皇が亡くなったの代替わりのため、悲しみに沈んだことにより、報道も控えめだった。しかし、今回は天皇死去が伴わず、おめでたムードになったこと。そして平成において、国民は象徴としての天皇を受け入れたこと。以上の理由で、テレビは明るいニュースとして大いに取り上げた。また、そうした番組企画にすることで、民放は広告が取りやすい、ということもある。
- A-2: 今回の報道では、雅子妃殿下の『皇室外交』を評価する論調が目立った。
それらは、皇太子妃時代の報道と異なるスタンスだと思うが？
⇒『皇室外交』はマスコミがつくった言葉で、宮内庁では『外交親善』と呼ぶ。宮内庁は、天皇

および皇后が政治利用されないよう、ガード役になろうとする。また『外交親善』は、諸問題のきっかけではなく、最終形というスタンスと考える。しかし、「露払いをしてもらおう」と思う政治家もいる。

●A-3：皇室報道において、取材者が中心的に狙うテーマはどんな事柄か？

⇒ご結婚・ご逝去は、国民の関心も高く、大きな記事になる。一人の人物像をどれだけ書けるかが、記者の力量。天皇・皇后・皇族に直接取材する機会は限られるので、その方に関わる人をたくさん知っていて、どれだけ取材できるかが、深味のある記事に仕上げるための鍵。

⇒昭和34年の皇太子ご成婚パレードでは、TBSがお二人を「昭仁さん。美智子さん。」と呼んだ。国民が新時代の皇室と認識したからこそ、「殿下」ではない呼び方で報道できた。

ジャンルB『皇室の存続問題』に関して

●B-1：皇族の減少により、公務の担い手が減ってゆく。女性皇族が結婚後も“仕事”として公務を行うことはできないのか？元・皇族として特別な称号を与えれば良いと思う。

⇒公務となる催しの主催者側にニーズはある。皇族を呼ぶ側は、団体・催事のいわゆる『箔付け』になる。呼ばれる側も「税金を使うだけではない存在意義」を国民に示す機会にもなる。しかし、催しが公務としてふさわしいか、精査は必要。

●B-2：皇太子不在になり、秋篠宮さまは皇嗣として、今後は天皇になる準備をするのか？

⇒天皇即位に拒否権はない。一旦、拒否権が認められると、次も行使されることを、保守派は懸念している。しかし、秋篠宮さまの次の即位が70代になると考えると、どうなるかは分からない。そもそも秋篠宮さまは「皇太子として育てられていない」と即位の意思はないとみられる。

●B-3：皇族減少や女系・女性天皇問題を、いま決める必要はあるのか？愛子天皇を検討することは、お家騒動につながるのでは？

⇒悠仁さまの誕生により、「当面は大丈夫。行けるところまで行こう」という意見もある。しかし、行けるところまでのラインはどこなのか？皇室に嫁ぐプレッシャーを鑑みると、悠仁さまのご結婚相手が順調に決まるとは限らず、ひいては天皇家のお家断絶を宮内庁は懸念している。

●B-4：皇室を残したい、という上皇さまの思いは？

⇒皇統をつなぐことが、皇室の人々にとって一番大切なことである。そもそも、昭和天皇が開戦を認めたのも「このままだと、アメリカに攻められ、皇統が途絶える」と軍に迫られたため。そして、戦争を止めたのも「三種の神器を守れない。つまり皇統を維持できない」と考えたため、と言われている。それほど皇統をつなぐことが大切。上皇さまも、それは同じ思いで、皇統維持のために「女性天皇、容認」と考えている、とみられる。

ジャンルC『政教分離』と『天皇の役割』に関して

●C-1：アメリカも政教分離だが、議会に神父が付いている等、政治と宗教は自然な関係で結びついている。日本も政教分離と称するが、ならば天皇陛下の役割とは？国の安寧を“祈る”ことが役割のはずだが。

⇒日本の政教分離は、国家神道の反省から来ている。国家神道は「戦争に勝ちますように」と祈るものだった。しかし、天皇に宗教行為を禁じてはいない。プライベート（内廷費）で行うことは、問題とされていない。

●C-2 : 天皇陛下の**水の活動**は皇室外交になり、プライベートな活動とはならないのでは？

⇒天皇には3つの役割・活動ジャンルがある。1. 国事行為 2. 公的行為 3. その他行為
(宮中祭祀・個人的な趣味) 水の活動は、公的行為となるかは微妙。しかし、公的行為とプライベートな活動をミックスしたようなグレーゾーンが出現する可能性はある。

(以上)